

辰井聡子 研究業績一覧 (2019年以前)

○論文

- ・判例研究「麻薬特例法における「不法収益」の意義」上智法学論集40巻1号（1996年4月）217～228頁
- ・「フランスにおけるクレジットカード犯罪に関する法制度について」クレジット研究16号（1996年9月）90～96頁
- ・「犯罪地の決定について（1）（2・完）」（1997年9月～1998年2月）上智法学論集41巻2号69～117頁・3号245～282頁
- ・「色丹島から一二海里内の海域及び同島から一二海里を超え、二〇〇海里内の海域における日本国民の漁業に国民の国外犯としての無許可漁業罪の成立が認められた事例——ウタリ共同事件上告審決定」（1998年10月）ジュリスト1143号135～138頁
- ・判例研究「不適切な医療の介入と因果関係」（1999年4月）上智法学論集43巻1号159～172頁
- ・「環境汚染の国際化と内国刑法の役割」（1999年4月）『環境刑法の総合的研究平成10年度科学研究費補助金基礎研究（B）(1)研究成果報告書』
- ・「不法入国と緊急避難」（1999年11月）現代刑事法1巻7号76～86頁
- ・「刑法の場所的適用——国内犯と国外犯」（1999年12月）上智大学法学論集43巻3号65～91頁
- ・「ドイツの司法精神医療」（2000年10月）日本精神病院協会雑誌19巻10号35～42頁（東雪見と共著）
- ・「生命科学技術の展開と刑事的規制」（2001年9月）法律時報73巻10号22～27頁
- ・「おからが『産業廃棄物』に該当するとされた事例」（2001年11月）ジュリスト1212号124～127頁
- ・「ニューヨーク州の司法精神医療」（2002年1月）日本精神病院協会雑誌21巻1号53～61頁（町野朔と共著）
- ・「責任能力」（2002年6月）法学教室261号20～22頁
- ・「生命倫理と墮胎罪・母体保護法の問題点—人工妊娠中絶をめぐる—」（2002年10月）現代刑事法42号40～48頁
- ・「結果的加重犯と因果関係」刑法判例百選I総論〔第5版〕（2003年4月）20～21頁
- ・「無銭飲食・宿泊」刑法判例百選II各論〔第5版〕（2003年4月）96～97頁
- ・町野朔編『環境刑法の総合的研究』（2003年9月）共著（第1章第3節I 122～144頁）
- ・「国民保護のための国外犯処罰について」（2003年11月）法学教室278号24頁～31頁
- ・「新領海法により新たに領海となった海域における韓国漁船の操業に対する日本の裁判管轄権は、旧日韓漁業協定4条1項により制限されないとした事例—— 最三小決平成11・11・30」ジュリスト1264号（2004年3月）136～139頁
- ・「法と倫理」（2004年3月）平成14・15年度科学技術振興調整費調査研究報告書『科学技術政策提言 生命科学技術推進にあたっての生命倫理と法』15～26頁
- ・「生命の保護」（2004年4月）法学教室283号51頁～58頁
- ・「結果帰属と因果関係」（2004年4月）『ロースクール刑法総論』12～21頁
- ・「刑法における生命の保護」（2004年9月）『ロースクール刑法各論』1～9頁
- ・「名誉毀損」（2004年9月）『ロースクール刑法各論』24～31頁

- ・「生命発生の周辺をめぐる生命倫理と刑事規制」（2004年8月）刑法雑誌44巻1号82頁～93頁
- ・「児童三名に対する児童福祉法三四条一項六号違反罪と児童買春等処罰法五条二項違反罪の罪数関係、刑法五四条一項前段「その最も重い刑」の解釈（東京高判13・12・28）」判時1861号（判例評論547号）（2004年9月）197-202頁
- ・「国外犯処罰規定でイラクの日本人を守れるか？」（2005年2月）ジュリスト1283号2頁～5頁
- ・「暴行と死亡との間に被害者の不適切な行為が介在した場合の因果関係」（2005年3月）（判批最決平成16年2月17日刑集58巻2号169頁）法学教室294号別冊付録「判例セレクト2004」30頁
- ・「法改正に向けて何が必要か」（2006年1月）外科治療94号 特集今日の臓器移植—課題と展望—76～81頁
- ・「暴行の被害者が逃走中に高速道路に進入して交通事故死した場合の因果関係」（判批最決平成15年7月16日刑集57巻7号950頁）（2006年2月）ジュリスト1306号188頁～191頁
- ・「因果関係論」刑法雑誌45巻3号（2006年4月）369頁～382頁
- ・「重篤な患者への治療の停止—川崎協同事件第1審判決」（判批横浜地判平成17年3月25日判時1909号130頁=判タ1185号114頁）ジュリスト1313号『平成17年度重要判例解説』（2006年6月）165頁～167頁
- ・「歯科医師による気管挿管研修」医事法判例百選（別冊ジュリスト183号）（2006年9月）6～7頁
- ・「道路上で停車中の自動車後部のトランク内に被害者を監禁した行為と、同車に後方から走行してきた自動車を追突した交通事故により生じた被害者の死亡との間に因果関係があるとされた事例」（判批・最決平成18年3月27日刑集60巻3号382頁）刑事法ジャーナル7号（2007年3月）64-72頁
- ・「硫酸ピッチ入りドラム缶の放置・埋設が不法投棄とされた事例」（判批・札幌地判平成16年12月1日判例集未登載）特集「産廃判例の展開」INDUST22巻8号（2007年8月）32頁～34頁
- ・「刑法の適用範囲」西田典之・山口厚・佐伯仁志『刑法の争点』（ジュリスト増刊）12-13頁（2007年10月）
- ・「公文書無形偽造の間接正犯」西田典之・山口厚・佐伯仁志『刑法の争点』（ジュリスト増刊）230-231頁（2007年10月）
- ・「被害者の同意」別冊ジュリスト189号『刑法判例百選1総論 [第6版]』（2008年2月）46-47頁
- ・「保護責任者の意義」別冊ジュリスト190号『刑法判例百選1総論 [第6版]』（2008年3月）22-23頁。
- ・「治療中止と殺人罪の成否——川崎協同病院事件（東京高判平成19・2・28）」法学教室330号判例セレクト2007（2008年3月）27頁
- ・「因果関係論——解題と拾遺——」川端博・浅田和茂・山口厚・井田良『理論刑法学の探究1』（2008年5月）1-43頁
- ・「多能性幹細胞を使った再生医学研究」（知っておきたい！バイオの法律と倫理指針）実験医学 Vol.26 No.8（2008年5月）1285-1289頁

- ・「『生命倫理法』論議の争点と作法」ジュリスト1359号（特集：生殖補助医療の法制化をめぐって）（2008年7月）58-65頁
- ・「治療行為の正当化」中谷陽二編『精神科医療と法』（弘文堂）（2008年8月）347-368頁
- ・「再生医療の法と倫理——ES指針の問題性」ヒューマンサイエンス19巻5号（2008年9月）18-21頁
- ・「治療不開始／中止行為の刑法的評価——「治療行為」としての正当化の試み」明治学院大学法学研究86号（2009年1月）57-194頁
- ・「生命科学研究の現場——施設内倫理審査委員会の現状」L&T 43号（2009年4月）168頁
- ・「結果帰属と因果関係」町野朔・丸山雅夫・山本輝之編『プロセス演習 刑法 総論・各論』（2009年4月, 信山社）1-16頁
- ・「生命の論じ方」法律時報81巻6号（1009号）（2009年6月）52-58頁（特集「刑法典施行100年——今後の100年を見据えて」）
- ・「臓器の移植に関する法律と臓器移植」高橋公太編『腎移植のすべて』（2009年11月, メジカルビュー社）500-502頁
- ・「国境を越える犯罪に対する刑法の適用」多賀谷一照・松本恒雄編集代表『情報ネットワークの法律実務』6221-6228頁（追録・2009年10月, 第一法規）
- ・「研究用組織の提供・使用に関わる法令、ガイドライン」町野朔・雨宮浩編『バイオバンク構想の法的・倫理的検討』104-126頁（2009年12月）
- ・「生命倫理と刑法」ジュリスト1396号（2010年3月）94-101頁
- ・「現代刑事法研究会〔第4回〕生命倫理 座談会」ジュリスト1396号（2010年3月）102-125頁（山口厚、井田良、佐伯仁志、今井猛嘉、橋爪隆、高山佳奈子、辰井聡子）
- ・「ブレインバンクの実現に向けた法的・倫理的課題」日本生物学的精神医学会誌21巻2号121-125（2010年）
- ・「準強制わいせつ行為をした者がわいせつ行為を行う意思を喪失した後に逃走目的で行った暴行により被害者に傷害を負わせた場合の強制わいせつ致傷罪の成否」（判批・最決平成20年1月22日刑集62巻1号1頁）ジュリスト1416号102-105頁（2011年2月）
- ・「臓器移植—改正と今後の課題」（日本刑法学会第88回ワークショップ記録）刑法雑誌50巻3号128—133頁
- ・「脳死説の検証」町野朔・山本輝之・辰井聡子編『移植医療のこれから』121～130頁（2011年7月, 信山社）
- ・「死体由来試料の研究利用——死体損壊罪、死体解剖保存法、死体の所有権——」明治学院大学法学研究91号45-86頁（2011年8月）
- ・重篤な疾患で昏睡状態にあった患者から気道確保のためのチューブを抜管した医師の行為が法律上許容される治療中止に当たらないとされた事例——川崎協同病院事件上告審決定（最決平成21年12月7日刑集63巻11号1899頁）論究ジュリスト1号（2012年5月）
- ・「終末期医療とルールの在り方」甲斐克則編『医事法講座 第4巻 終末期医療と医事法』（2013年2月）215-233頁
- ・「意識障害及び筋弛緩作用を伴う急性薬物中毒症状の惹起と傷害罪（最決平成24年1月30日刑集66巻1号36頁）」『平成24年度重要判例解説』（ジュリスト1453号）（2013年4月）155-156頁

- ・「第三者に無断譲渡する意図を秘して自己名義でプリペイド式携帯電話機を購入する行為と詐欺罪（未遂）（東京高裁平成24年12月13日判決高刑集65巻2号21頁）」判例セレクト2013 [I] 34頁（法学教室401号別冊付録）（2014年2月）
- ・「ヒト試料およびヒト遺伝情報の大規模利用に伴う倫理的・法的諸問題」医薬ジャーナル50巻3号（2014年3月）65-70頁
- ・「再生医療等安全性確保法の成立——医療・医学研究規制を考えるための覚書——」立教法務研究7号（2014年3月）151-177頁
- ・辰井聡子・境田直樹・高山佳奈子・米村滋人・曾我部真裕「次世代医療の実現に向けた法制度の在り方——提言」立教法務研究7号（2014年3月）178-188頁
- ・「自由に対する罪」の保護法益——人格に対する罪としての再構成」岩瀬徹・中森喜彦・西田典之編集代表『刑事法・医事法の新たな展開 上巻』（信山社、2014年3月〔6月公刊〕）411-435頁
- ・「ヒト試料およびヒト遺伝情報の大規模利用に伴う倫理的・法的諸問題」医薬ジャーナル50巻3号（2014年3月）65-68頁
- ・辰井聡子「再生医療等安全性確保法の成立・再論」年報医事法学（2015年）
- ・辰井聡子「研究を活性化させる規制の在り方——ライフサイエンス規制の新たな枠組み——」国立国会図書館調査及び立法考査局『ライフサイエンスのフロンティア——研究開発の動向と生命倫理——（平成27年度 科学技術に関する調査プロジェクト 調査報告書）』261～276頁（2016年3月）
- ・辰井聡子「同時傷害の特例について——限定的解釈の可能性」立教法務研究9号（2016年3月）1～16頁
- ・辰井聡子「医療と法律と倫理をつなぐ——法学の立場から」山崎久美子・津田彰・島井哲志『保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理』（ナカニシヤ出版 2016年8月）
- ・辰井聡子「刑法における人の「尊厳」——価値を論じるために」法学セミナー748号（2017年5月）24～29頁
- ・辰井聡子「先端生命科学技術の規制——正しさを語る社会を作る」法律時報89巻9号（1115号）（2017年8月）19～31頁
- ・辰井聡子「性犯罪に関する刑法改正——強制性交等罪の検討を中心に」刑事法ジャーナル55号（2018年3月）
- ・辰井聡子「医行為概念の検討——タトゥーを彫る行為は医行為か——」立教法学97号（2018年3月）14-46頁
- ・辰井聡子「研究を活性化させる規制の在り方——医学研究規制の近未来像」米村滋人編『生命科学と法の近未来』（2018年3月）31-52頁
- ・辰井聡子「自動運転の論点——倫理的・社会的観点から」国立国会図書館「自動運転技術の動向と課題：科学技術に関する調査プロジェクト報告書」
- ・辰井聡子「鑑定医による秘密漏示」長谷部恭男・山口いつこ・宍戸常寿編『メディア判例百選 第2版』（2018年12月）
- ・辰井聡子「極端気象と防災——自然とどう向き合うか」（2019年3月）国立国会図書館「極端気象の予測と防災：科学技術に関する調査プロジェクト報告書」
- ・辰井聡子「論文を書いて人生を占う」法学教室463号（2019年4月）2-3頁

○著書

- ・町野朔編『環境刑法の総合的研究』（2003年9月）共著（第1章第3節I 122～144頁）
- ・辰井聡子『因果関係論』（2006年12月）単著
- ・伊東研祐・松宮孝明編『学習コンメンタール刑法』（2007年4月）共著（第1編 第1章7-19頁）
- ・町野朔・辰井聡子『ヒト由来試料の研究利用——試料の採取からバイオバンクまで』（2009年5月 Sophia University Press）共著
- ・町野朔、水野紀子、辰井聡子、米村滋人編『医療・医学研究と法 1 生殖医療と法』（2010年4月、信山社）共著
- ・池田真朗、小林明彦、宍戸常寿、辰井聡子、藤井康子、山田文『判例学習のA to Z』（2010年10月、有斐閣）共著
- ・町野朔、山本輝之、辰井聡子『移植医療のこれから』（町野朔、山本輝之と共編・共著）（2011年7月、信山社）
- ・松原芳博編『刑法の判例 各論』（2011年10月、成文堂）共著（担当：2 胎児性致死傷—熊本水俣病事件—最決昭和63年2月29日刑集42巻2号314頁...17～31頁）
- ・辰井聡子、和田俊憲『刑法ガイドマップ（総論）』（2019年3月、信山社）

○学会報告、講演等

- ・日本刑法学会第80回大会 ワークショップ「生命操作と刑事規制」問題提起者（「クローニングとその周辺」担当）、平成14年5月
- ・2003年5月 日本刑法学会第81回大会 ワークショップ「犯罪地」問題提起者
- ・2003年7月27日 日本刑法学会関西部会 共同研究「生命倫理と刑法—新規医療テクノロジーをめぐる生命倫理と刑事規制」（「生命発生の周辺をめぐる生命倫理と刑事規制」を担当）（京都大学）
- ・2005年6月19日 日本刑法学会第83回大会 個別報告「因果関係論」大会2日目（北海道大学）
- 2005年12月 第12回ユネスコ国際生命倫理委員会総会 セッションV「生命倫理の今日的課題と生命倫理の国際性—生命倫理のアジア的パラダイム」報告者
- ・2009年4月24日 第31回日本生物学的精神医学会 シンポジウム「死後脳研究—その成果と課題」（司会・加藤忠史、丹羽真一） 報告 ブレインバンクの実現に向けた法的・倫理的課題—現状と展望
- ・2009年7月17日 第40回医学系大学倫理委員会連絡会議（昭和大学） シンポジウムI「医学研究と倫理」 報告 研究用組織の提供・分配システムをめぐる倫理的問題（メディカルエシックス40所収）
- ・2010年6月 日本刑法学会88回大会 ワークショップ「臓器移植—改正と今後の課題」オーガナイザー
- ・2011年2月26日（土）第8回日本小児科学会倫理委員会公開フォーラム「重篤な疾患を持つ子供の治療方針決定のあり方—話し合いのガイドラインの提案」（主催：日本小児科学会、共催：財団法人パブリックヘルスリサーチセンター）（早稲田大学総合学術情報センター 国際会議場 井深大記念ホール） 発表「小児終末期医療と法」・2013年10月 日本医事法学会第44回大会 シンポジウム「再生医療の規制はどうあるべきか」 報告「再生医療等安全性確保法の成立・再論」

- ・2013年4月20日 コホート事業 キックオフ シンポジウム 招待講演「研究と市民と法」
(TKPガーデンシティ仙台ホール)
- ・2014年11月21日 日本人類遺伝学会第59回大会 日本遺伝子診療学会第21回大会 シンポジウム 報告「研究者は法とどのようにつき合うべきか」
- ・2014年 日本生殖医学会 講演「生殖医学研究の規律－法と倫理」
- ・2014年 生命医薬情報学連合大会 講演「自由で活気ある研究活動のために－法規制と研究の自律」
- ・2015年12月 臨床検査医学会研究倫理シンポジウム 報告
- ・2018年12月9日 日本生命倫理学会第30回年次総会 市民参加型ワークショップ@京都府立京都学・歴史館「自動運転のある暮らし：誰もおいていかない移動のデザインとその倫理」コメント

○社会貢献活動等

- ・文部科学省「再生医療の実現化プロジェクト」推進委員（平成15年～）
- ・独立行政法人理化学研究所 筑波研究所研究倫理委員会 委員
- ・独立行政法人産業技術総合研究所ヒト由来資料実験倫理委員会 委員
- ・東京都監察医務院研究倫理委員会委員
- ・H A B研究機構 倫理委員会 委員
- ・一般社団法人医薬品開発支援機構（APDD）中央倫理審査委員会
- ・文部科学省研究振興局「生命倫理に関する規制のあり方に係る調査研究」評価委員会委員（平成20年5月14日～平成22年3月31日）
- ・日本小児科学会倫理委員会小児終末期医療ガイドラインワーキンググループ 平成20年6月15日～平成22年
- ・東京大学医科学研究所「オーダーメイド医療実現化プロジェクト予後調査ワーキンググループ委員（平成21年4月1日～平成22年3月31日）
- ・平成21年度「研究機関における機関内倫理審査委員会調査」調査委員会委員
- ・東京大学医科学研究所・ヒト幹細胞臨床研究審査委員会 委員
- ・日本生物精神医学会ブレインバンク法・倫理指針策定委員会委員（2010年5月～）
- ・厚生労働省「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針の見直しに関する専門委員会ワーキンググループ」委員（平成22年6月～）
- ・平成22年度「エコチル調査プロトコル等策定ワーキンググループ」委員（平成22年7月5日～平成23年3月31日）
- ・国立成育医療研究センター臓器移植倫理委員会委員（平成22年9月1日～）
- ・内閣府総合科学技術会議生命倫理専門調査会委員（平成22年11月1日～）
- ・文部科学省「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（以下「ゲノム指針」）」の見直しに関する専門委員会」委員（平成23年2月～）
- ・厚生労働省「ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針に関する専門委員会」委員（平成23年3月～）
- ・経済産業省「産業構造審議会化学・バイオ部会個人遺伝情報保護小委員会」委員（平成23年3月25日～平成25年3月24日）
- 2012年 厚生労働省 厚生科学審議会疾病対策部会造血幹細胞移植委員会 委員（～2019年3月）

2012年 内閣官房医療イノベーション推進室 遺伝情報の取扱いに関する法制度の在り方に関する検討会 委員 (終了)

2012年 厚生労働省社会保障審議会医療分科会委員 (2013年度で終了)

2012年 労働基準監督官研修 (刑法総論) (~2017年)

2012年 東北メディカルメガバンク 倫理・法令全国ワーキンググループ (~2019年3月)

2013年 厚生労働省厚生科学審議会再生医療の安全性確保と推進に関する専門委員会委員

2015年 東北メディカルメガバンク 遺伝情報回付検討委員会委員 (~2019年3月)

2015年 文部科学省 科学技術・学術審議会専門委員 (脳科学)

2015年4月~ 文部科学省 大学が保管するアイヌ遺骨の返還に向けた手続等に関する検討会委員

○研究費

文部科学省科学技術振興調整費、平成14年・15年度「生命科学技術推進にあたっての生命倫理と法」研究代表者：町野朔 (研究実施者として、磯部哲、奥田純一郎、佐藤雄一郎、隅藏康一、高山佳奈子、辰井聡子、和田俊憲が参加)、研究経費：5800万円、全11回の研究会、1回のシンポジウム、1回の研究合宿を経て、平成16年3月に報告書『科学技術政策提言 生命科学技術推進にあたっての生命倫理と法』をまとめる。生命科学技術を健全な形で推進するための政策・政策決定のあり方に関する政策提言を行った。

文部科学省科学技術振興費、平成16年度「ライフサイエンスにおける倫理的・法的・社会的問題に関する調査研究」研究代表者：菱山豊 (研究者として、町野朔、磯部哲、井田良、奥田純一郎、佐藤雄一郎、隅藏康一、高山佳奈子、辰井聡子、中山茂樹、山本輝之、和田俊憲が参加)、受託機関：政策研究大学院大学、研究経費：750万円、全7回の研究会を経て、平成17年3月に報告書『ライフサイエンスにおける倫理的・法的・社会的問題についての調査研究』を

・平成20年度~平成24年度 文部科学省委託研究「先端医科学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究 (ゲノム・遺伝子研究の実施に関わる諸問題についての調査研究)」業務主任者 (平成20 2000000、平成21 3500000 平成22 1100000 平成23 1100000平成24 105000)

・平成22年度 厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業) 「胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) 及び体性幹細胞の樹立及び分配に関する指針策定のための調査研究」分担研究者

・平成25年度厚生労働科学研究費補助金 (再生医療実用化研究事業) 再生医療の社会受容に向けた医事法・生命倫理学の融合研究 (研究代表者 奥田純一郎) (担当「細胞・組織供給体制と再生医療新法」 (分担研究者 配分 25 万円 平成26年度50万円)

・平成25年度 科学研究費補助金基盤研究 (A) 「生命科学の規制と支援の法制度に関する包括的研究」 (研究代表者 米村滋人) 分担研究者40万円 ~26年